失われつつある風景の継承への取り組み
～三田市のウド小屋 ／ 県立公園での体験学習プログラム化～

自然・環境マネジメント研究部　環境計画研究グループ　　福本　優

三田の冬の風物詩”だった”ウド小屋。今でも、この方法でウドを栽培されている農家さんは市内でも僅かとなってしまいました。三田でのウド栽培は、大阪三島から栽培方法を教えてもらい始まったそうです。白くシャキシャキとサラダでも食べられるウドは、この小屋で日光を遮る軟化栽培という手法のおかげです。

2021年12月　淡路景観園芸学校の大学院生とウド小屋づくり
ウド小屋の風景を県立公園内に再現。どれだけの作業量が必要なのかも体感した。

三田市内では、ウド小屋を使ったウドの軟化栽培が盛んでしたが、今では効率が良いとされるハウス栽培が中心です。こうした農業の変化が田園地域の冬の景観を変化させています。時代の潮流の中、こうした変化は仕方ないことだと思います。そこで、この技術を少しでも残そうと県立有馬富士公園の中で、体験学習としてウドを育てるプログラムを実施しています。三田市内の高校生や県内の大学院生と一緒に地元の農家の方に技術を学びながらウド小屋を建て、育て、収穫しました。今後どのような時代の変化が訪れるのか、その予測は難しいですが、今は、形を変えながらでも技術を継承しようと取り組んでいます。

2023年1月
クラーク国際高校三田高の高校生と。
農家の人と高校生の出会いも重要な学びとなった。

実は、三島から三田にいたる北摂の北側（高槻、茨木、豊能、三田）では、ウドの栽培が見られるのですが、少しヒアリングをすると、どうやら三田地域以外では、ウド小屋ではなく、半地下空間などを使って栽培していることがわかりました。ここには武庫川の氾濫リスクのある三田の特有の要因が関係しているかもしれません。建築分野からも、実は研究の余地があると考えています。